2024 年度「全腎協ニューズレター」第５号
全腎協事務局作成（2025. 2. 25）

■ 透析患者数 2 年連続で減少へ　－ 2023 年末慢性透析患者数 34 万 3,508 人 －

日本透析医学会は、2023 年末現在における透析患者数の調査結果「わが国の慢性透析療法の現況」を公表しました。

慢性透析患者の全体数は、前年から 3,966 人減少し 34 万 3,508 人でした。2 年連続しての減少です。新規に透析を始める導入患者数もまた前年と比較し 919 人減少し 3 万 8,073 人でした。

糖尿病性腎症は持続的に減少

新規導入患者の原疾患は、前年同様糖尿病性腎症が第 1 位、腎硬化症が第 2 位でしたが、糖尿病性腎症の割合は近年持続的に減少（前年比 0.4 ポイント減）している一方、腎硬化症の割合は増加（同比 0.6 ポイント増）しています。

平均年齢 70.09 歳、75 歳以上で増加

患者全体の平均年齢は、70.09 歳でした。高齢化は続いているものの、70 歳未満の患者数は 2017 年から、75 歳未満も 2021 年から減少しており、75 歳以上の患者数が増加しています。

最長透析歴は 53 年 1 か月でした。

（2023年末現在）

わが国の慢性透析療法の現況（要約）	
慢性透析患者総数	343,508人 （3,966人減　1.2％減）
新規導入患者数	38,764人 （ 919人減　2.4％減）
新規導入患者の原疾患	
1 糖尿病性腎症	13,844人（38.3％　0.4ポイント減）
2 腎硬化症	6,957人（19.3％　0.6ポイント増）
3 原疾患不明	5,248人（14.5％　0.5ポイント増）
4 慢性糸球体腎炎	4,901人 （13.6％　0.4ポイント減）
年末患者の平均年齢	70.09歳 （0.22歳増）
新規導入患者の平均年齢	71.59歳 （0.17歳増）
最長透析歴	53年1か月

日本透析医学会調べ

■ 透析アミロイド症に「オンラインＨＤＦ」と「吸着型血液浄化器」との併用が承認

社会保険診療報酬支払基金関東ブロック*審査委員会は昨年 4 月、同年 8 月診療分から「オンラインＨＤＦにおける吸着型血液浄化器との併用算定を認める」とする保険診療審査結果を明らかにしました。＊茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県

透析が長期にわたると、アミロイドという物質が体内の骨・関節に沈着し、関節の痛みやしびれなど運動障害を引き起こします（透析アミロイド症）。治療法の一つとして、透析に吸着型血液浄化器（リクセル等）を取り付けて行うと、アミロイドの原因物質であるβ2 ミクログロブリンが除去され、透析アミロイド症が軽減されるといわれています。

これまでリクセル等が使用できる透析は、血液透析（ＨＤ）と解釈され、オンラインＨＤＦ（血液ろ過透析）を受けている患者はリクセル等との併用が保険診療として認められず、痛みに苦しむ透析患者からは併用を認めてほしい、という切実な声があがっていました。

今回の保険診療審査結果は、関東ブロック内にとどまらず全国で共有されるべき事案です。透析アミロイド症に悩むる患者の中で、かつてオンラインＨＤＦとリクセル等の併用ができず治療をあきらめていた方がいれば、下記通知を参考に改めて主治医と相談なさってみてください。

なお、リクセル等を使用した透析はどの患者も受けらるわけではなく、▼手術や生検によってβ2 ミクログロブリンによるアミロイド沈着が確認されていること、▼透析歴が 10 年以上であり手根管開放術を受けていること、▼画像診断により骨嚢胞が認めらること、のすべてを満たしている必要があります。また、リクセル等の算定期間は 1 年を限度という条件もあります（再使用可）。

参考：「関東ブロックにおける審査上の取扱い　（ブロック取決）のご案内」
https://www.ssk.or.jp/shibu/13_tokyo/index.files/060501_kanto_bl.pdf